

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：16301
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2018～2022
課題番号：18K02626
研究課題名(和文) 外国語チーム・ティーチング改善のための教員研修プログラムと支援ツールの開発

研究課題名(英文) Developing an in-service teacher training program and supporting tools for team-teaching with ALTs

研究代表者
池野 修 (Ikeno, Osamu)

愛媛大学・教育学部・教授

研究者番号：70294775

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は、次の3点に要約することができる。(1) 日本人教員/ALTに対して調査を行い、「外国語チーム・ティーチング(TT)の課題」に関する詳細な情報を収集し、整理した。(2) TT向上のための教員研修プログラムを開発し、実施、評価、修正、再実施という過程を経て、教員研修のモデル事例として報告・提案した。(3) 様々なTT支援ツール(例：TT授業計画シート、TT授業評価ルーブリック)を開発し、それを現職教員による評価に基づき修正し、有用性を高めたツールとして発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、外国語チーム・ティーチング(TT)についての研究を、「TTの課題」に関する詳細な情報を収集し、それを整理することで発展させたこと、「教師教育」に関する学術的な知識ベースを、TT担当教員のための教育という点で充実させたことである。社会的意義としては、TTに関する教員研修を開発・実施し、それをモデル事例として提案したこと、TTをサポートする様々なツール(例：TT授業計画シート、「ALTへのお願い」シート)を開発し、公表したことなどが挙げられる。

研究成果の概要(英文)：This research has intended to improve team teaching (TT) with ALTs by developing an effective in-service teacher training program and tools that can be used in planning and reflecting on TT lessons. First, I conducted a survey into how elementary and junior high school teachers perceive the problems of TT (e.g., characteristics of unsuccessful TT lessons). Partly based on the survey findings, I then developed and implemented a teacher training program called “Preparing HRTs & JTEs to team-teach effectively with ALTs,” which includes discussing the problems of TT, making original TT lesson planning/reflection sheets, making a list of requests for ATLs, and practicing small talk. The evaluation by the participants was used to revise the program to better meet the needs of in-service teachers. I also developed the tools that teachers can use for improving TT, such as a TT lesson planning sheet and a TT lesson evaluation rubric.

研究分野：英語教育学

キーワード：チーム・ティーチング 教員研修 ALT

1. 研究開始当初の背景

本研究は、小学校外国語及び中学校英語におけるティーム・ティーチング（TT）授業に関する詳細な調査を行い、調査結果に基づき、TT 向上のための教員研修プログラム及び TT 支援のためのツール（例えば、TT 授業計画シート、TT 授業評価ルーブリック）の開発と評価を行う研究である。研究開始当初も TT に関する研究は行われていたが、実態調査と意識調査（日本人教師と ALT の役割、TT に関する一般的な意見）がほとんどであり、「TT を具体的にどのように改善するか」という視点からの研究が不足していた。そこで、本研究では、TT 教員研修プログラム及び TT 支援ツールの開発に関する研究を行うことで、小学校外国語及び中学校英語の TT 実践改善のための知識ベースを充実させることを目指した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、主に以下の 3 点の研究成果を生み出すことである。

- (1) TT の効果的活用、TT の問題事例、学級担任&専科教員と ALT がお互いに対して望んでいることなどについての詳細な情報を収集し、整理すること。これらの情報は今まであまり調査対象とされてことであり、また、TT 教員研修や TT 支援ツールの開発において必要となる情報である。
- (2) TT 教員研修プログラムのモデルを開発すること。日本人教員対象の研修と ALT 対象の研修の両方を開発し、提案する。
- (3) TT 支援のためのツールを開発し、提案すること。TT 授業計画シート、TT 授業振り返りシート、ALT への要望シート、TT 授業評価ルーブリックなどが含まれる。

3. 研究の方法

上記の 3 つの目的を達するために、5 年間の研究期間において、次のような方法と手順で研究を進めた。（研究開始当初は 3 年間の研究期間の予定であったが、コロナ禍が原因で、研究の核となる TT 教員研修の再実施ができなかったため、延長申請をした。）

- (1) TT 教員研修プログラムと TT 支援ツールの理論的基盤作り TT について、包括的に先行研究や最新動向について広範囲に調査を行い、開発する TT 教員研修と TT 支援ツールの理論的基盤を堅固なものとした。
- (2) TT に関する調査の実施 主に「TT 授業の課題」についての情報を多面的に集めるための調査を実施した。日本人教員対象の調査と ALT 対象の調査を行った。
- (3) 日本人教員向けの TT 研修プログラムの開発・実施・評価 TT 改善のための教員研修プログラムを開発し、松山市や今治市の教員研修において実施した。内容としては、調査から明らかになった効果的な指導例や問題場面についての考察、ALT/日本人教員が相互に要望することの検討、ALT とのやりとりにおける英語使用のトレーニングなどである（詳細については「4. 研究成果」の欄を参照）。
- (4) ALT 向けの TT 研修プログラムの開発・実施 特に (2) の調査で得た情報を用いて、ALT のための TT 研修プログラムも開発し、約 100 名の ALT を対象に実施した（およそ同数の日本人教員も参加していた）。
- (5) TT 支援ツールの開発 TT 授業支援ツール（例：短時間で記入可能な TT 授業計画シート、授業振り返りシート、TT 授業評価ルーブリック）の試作版を開発した。それに対する現場教員による評価データを得た。
- (6) 日本人教員向けの TT 研修プログラムの修正と再実施 TT 教員研修参加者からの評価データを基に、研修プログラム及びそこで用いている資料を修正し、修正した研修プログラムを実施した。
- (7) TT 授業支援ツールの修正 現職小学校・中学校教員による評価に基づき、TT 授業支援ツールを修正した。
- (8) 「TT 改善のための教員研修資料及び支援ツール」ガイドブックの作成 研究成果をまとめた資料・冊子『外国語（英語）ティーム・ティーチング改善のための教員研修資料及び支援ツール』を作成した。

4. 研究成果

本研究の成果は、(1) 「TT の課題」に関する調査結果（日本人教員対象、ALT 対象）、(2) TT 教員研修プログラム、(3) TT 授業支援ツールの 3 つである。これらの詳細な情報については、池野（2020a）や池野（2020b）などの論文及び冊子『外国語（英語）ティーム・ティーチング改善のための教員研修資料及び支援ツール』を参照されたい。

(1) 「TT の課題」に関する調査結果（日本人教員対象の調査、ALT 対象の調査）

TT の課題にフォーカスして、日本人教員（小学校・中学校）及び ALT に対して調査を行った。具体的調査項目は、(A) 学級担任&英語教員と ALT が担う役割の重要度と実現度のズレ、

(B) 従来から指摘されてきた TT の課題に対する教員の認識, (C) うまくいった／いかなかった TT 授業, (D) 学級担任&英語教員から ALT への要望, ALT から学級担任&英語教員への要望, その他である。例えば, これらの内 (C) を例にとると, その調査結果の一部は以下のようにまとめられる。

表 1. うまくいかなかったティーム・ティーチング授業 (小学校)

概念名 (回答数)	回答例
ねらいを外れた指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT が授業のねらいとは関係ないこと (発音や言葉の起源など) に必要以上にこだわった。 ・「好きな曜日は何かな？」の単元でリスニングをしたとき, 曜日に関係あることではなく, 「この人の名前は？」と丁寧に一つ一つ聞いてくれたが, 時間が足りなかったので, 曜日だけおさえて次にいきかかった。現在は, 略案に時間配分も記入するようにしている。 ・6年生の過去形を扱う授業→ALT が文法指導を重視した。
児童の英語能力及びその個人差への配慮欠如	<ul style="list-style-type: none"> ・学習塾等で英語を学んでいる児童が受け答えをすると, そのまま次に進もうとしていた。大部分の児童はまだ理解できていないことが多いため, 丁寧に発音してほしいと感じた。 ・ALT に話をしてもらおう場面で, ALT が, 児童は未習の言葉を多用して速く話すので, 塾で習っている子だけしか, それに反応しなくなった。疎外感を感じた子が「分かる子とだけ, 話せばいい。僕ら, 習ってない」のような声をあげた。
必要以上の日本語使用	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT の言うことを学担が日本語に直すことが多いからか, 子どもたちは待ちの姿勢になる。 ・日本語が理解できる ALT だと, 逆に日本語が多くなる傾向がある。もっと英語でしゃべって欲しいなど感じることもある。
役割分担への考慮の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が主導して授業を進めていたところ, 授業自体は活発に行われていたが, ALT は明確な役割を与えられておらず, 退屈そうにしていた。 ・学担と ALT の役割分担がはっきりとできていないときは, 授業の中でそのやり取りが必要になってくるため, ロスタイムが生じてくる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生が職業の言い方を学習しているとき, ALT の先生のアイデアで, 列対応の会話レースを行なった。前から2人ずつ会話をしていく。前の人が, What do you want to be? と後ろの人に聞くと, 後ろの人はなりたい職業をジェスチャーし, それを見て You want to be a ~ . と当てたら, また次の2人が同じ会話をする。列の一番後ろの人まで会話が終わった列の勝ちとした。ALT とデモンストレーションを行い, 活動に入った。しかし, その学年はジェスチャーをしたがらず, なりたい職業も決まっていない児童も多く, 活動は全く機能しなかった。児童の実態をしっかり把握した上で, 活動をしなければならないことを痛感した。

なお, これらの研究成果については, 2019 年度大学英語教育学会中国・四国支部秋季研究大会 (2019 年 10 月 19 日) で発表を行い, 池野 (2020a) として論文にも纏めている。実際に教員研修で用いるデータともなり, ブックレット『外国語 (英語) ティーム・ティーチング改善のための教員研修資料及び支援ツール』において提示している。

(2) TT 教員研修プログラム

まず, 日本人教員 (小学校学級担任, 外国語専科教員, 中学校英語教員) 対象の TT 教員研修プログラムを開発した。このプログラムには以下の表 2 のような内容が含まれている。これらの他にも, 「ALT の本音」の調査結果の検討, TT 授業実践動画の分析, TT 模擬授業のような内容も構想している。

表 2. TT 研修の概要

	活動	内容	評価 平均 (標準偏差)
A	TT の意義, HRT & JTE / ALT の役割分担等の確認	TT の意義, HRT & JTE / ALT それぞれが持つ特性や役割などに関する 2 つの文章のいずれかを読み, 内容をペアの相手に伝える。	(データなし)
B	TT に関する質問への回答と関連調査結果の考察	TT において期待される役割をどの程度果たしているか, 従来から指摘されてきた TT の問題が自分の環境でどの程度当てはまるか, についての質問に答えた後, 関連の調査結果を確認し, グループで意見や情報を交換する。	4.11 (0.17)
C	ALT に使ってみたい表現の練習	授業中や授業打ち合わせなどにおいて ALT に使ってみたい英語表現を練習する。	4.53 (0.61)
D	TT 授業計画シート & TT 授業振り返りシートの作成	提示された TT 用の授業計画シート及び TT 授業振り返りシートについて, どう改善すればよいかをグループで話し合い, シートを修正する。	4.36 (0.68)
E	ALT への要望をまとめたシートの作成	グループで話し合いながら, ALT への要望をまとめたシートを完成させる。また, ALT による JTE & HRT への要望を確認する。	4.22 (0.68)
F	ALT と行うスモール・トークの練習	単独で行うスモール・トークの練習, その留意点の確認につづき, ALT との共同で行うスモール・トークを効果的に行うにはどうすれば良いかについて考察する。	4.44 (0.65)

実際に, 今治市小中合同夏季英語研修会 (2019 年 8 月 7 日, 参加者 39 名), 令和元年度愛媛県教職員レベルアップセミナー (2019 年 8 月 21 日, 参加者 32 名), 令和 4 年度愛媛県教職員レベルアップセミナー (2022 年 8 月 21 日, 参加者 22 名) において実施し, 受講者からの評価データを得た。表 2 に提示しているのは, 今治で行った研修を対象に, 主要な活動の有用性を 5 段階評定尺度 (「1」=「全く有用ではなかった」~「5」=「大変有用であった」) を用いて評価してもらった結果 (平均値(標準偏差)) である。全ての活動に対して, 平均値が 4.0 を上回っており, それらの有用性は高く評価されている。

なお, この研究成果については, 第 32 回四国英語教育学会・高知研究大会 (2021 年 6 月 26 日) で発表を行い, 池野 (2020b) の論文の中で, 評価データなどとともに詳説している。

また, ALT 対象の TT 教員研修プログラムについても, 初年度に行った日本人教員への調査結果を材料にして, (A) TT 授業の課題, (B) うまくいった/いかなかった TT 授業, (C) 日本人教員から ALT への要望などの内容を含むものを開発し, 2019-2020 ALT Skill Development Conference in Ehime (2019 年 11 月 28 日, 参加者約 180 名) において実施した。論文としては纏められていないが, 報告書『外国語 (英語) ティーム・ティーチング改善のための教員研修資料及び支援ツール』において関連情報を提示している。

(3) TT 支援ツール

より効果的に TT 授業を行うのを支援する目的で, (A) TT 授業計画シート, (B) TT 授業振り返りシート, (C) 「ALT への要望」シート, (D) ALT に使ってみたい表現集, (E) TT 授業評価ルーブリックなどのツールを開発した。(A)~(C)については, 現職教員からのフィードバックに基づき, 2 度に渡って修正 (改訂) を行った。これらの支援ツールは, 報告書『外国語 (英語) ティーム・ティーチング改善のための教員研修資料及び支援ツール』において提示している。例として, 修正を繰り返し開発した TT 授業計画シート (version 3.0) 及び TT 授業評価ルーブリックを以下に示す。どのような仕組みになっているか, どう用いるかについては前述のブックレットを参照されたい。

図1. ティーム・ティーチング授業計画シート

Foreign Language 外国語 Lesson Plan									
Date 日	/	Period 時限	1	2	3	4	5	6	
		Place 場所							
		HRT 担任							
Textbook/Material 教科書/教材	_____, page _____					/ hours for this Unit			
Target Expressions ターゲットとなる表現									
Objectives of the Lesson 授業のねらい	<input type="checkbox"/> To learn the target expressions and use them in <input type="checkbox"/> listening, <input type="checkbox"/> speaking (interaction), <input type="checkbox"/> speaking (presentation), <input type="checkbox"/> reading, <input type="checkbox"/> writing. (ターゲットとなる表現(言語材料)を学び、それを聞くこと、話すこと(やり取り)、話すこと(発表)、読むこと、書くことを使う) <input type="checkbox"/> To use English <u>appropriately in accordance with the purpose, scene and situation of communication</u> in Activity _____ (p. ____). (コミュニケーションの目的・場面・状況に応じて、活動_____において英語を適切に用いる。)								
Procedure 授業の展開	<input checked="" type="checkbox"/> Greetings (あいさつ)	Time				Please: Activities (活動リスト) ① Let's Watch and Think ② Let's Listen ③ Let's Play ④ Let's Talk ⑤ Let's Chant ⑥ Activity ⑦ Let's Read and Write ⑧ Others ()			
	<input type="checkbox"/> Review (復習)					Please: (ALT へのお願)			
	<input type="checkbox"/> Small Talk (スモール・トーク) Topic: _____					<input type="checkbox"/> Lead the practice of the target words and phrases. (ターゲット表現の練習を担当して下さい。) <input type="checkbox"/> Demonstrate a dialogue / an activity with the HRT/JTE. (会話/活動のデモを担当/専科教員と行って下さい。) <input type="checkbox"/> Activate students' background knowledge about the theme. (そのテーマについて、背景となる知識を児童に想起させて下さい。) <input type="checkbox"/> Participate in the activity and talk with students. (活動に参加し、児童と話して下さい。) <input type="checkbox"/> Provide information about _____ in your culture. (自分の国・文化の_____を紹介して下さい。) <input type="checkbox"/> Monitor students' activities and provide feedback. (児童の活動を観察して、評価の声かけ・伝達して下さい。) <input type="checkbox"/> Wrap-up and Greetings(まとめあいさつ)			
	<input type="checkbox"/> Activity 1 (活動1) 【 _____ 】 (p. ____)								
	<input type="checkbox"/> Activity 2 (活動2) 【 _____ 】 (p. ____)								
	<input type="checkbox"/> Activity 3 (活動3) 【 _____ 】 (p. ____)								
	<input type="checkbox"/> Model Dialogue (モデル対話)								
	<input type="checkbox"/> Writing (書く活動) Textbook/Worksheet (p. ____)								
	<input type="checkbox"/> Reflection (振り返り)								
	<input checked="" type="checkbox"/> Wrap-up and Greetings(まとめあいさつ)								

図2. ティーム・ティーチング授業評価ルーブリック

ティーム・ティーチング授業評価ルーブリック			
	準備&振り返り、全体的なこと	授業中のHRT&JTEの振る舞い	授業中のALTの振る舞い
A すごい!	<input type="checkbox"/> ALTが授業のねらいをきちんと理解している。 <input type="checkbox"/> 授業のどの時点で、何をを行うかをHRT&JTEとALTが共に理解している。 <input type="checkbox"/> 週に一度は、HRT and/or JTEとALTがこれから行う/行った授業について話し合う機会がある。 <input type="checkbox"/> HRT&JTEやALTがそれぞれの特性を効果的に生かした授業になっている。	<input type="checkbox"/> T1であるという自覚をもって授業を行っている。 <input type="checkbox"/> ALTとの対話を十分に児童・生徒に聞かせている。 <input type="checkbox"/> ALTが英語で述べたことを、より分かりやすく言い換えたり(e.g. 未習語を既習の表現で言い換える、例を出す)、要約したりして児童・生徒に話している。	<input type="checkbox"/> 児童・生徒と個別に英語で関わる場面が多くある。 <input type="checkbox"/> 授業のねらいを意識して、その達成のための指導を心がけている。また、ねらいに応じた言葉かけを行っている。 <input type="checkbox"/> 特定の児童・生徒(目立つ、英語学力が高い)だけでなく、全ての児童・生徒に注意を向けている。
B 合格👍	<input type="checkbox"/> 扱う言語材料(英語表現・文法)の確認ができている。 <input type="checkbox"/> おおよその役割分担の確認ができている。 <input type="checkbox"/> 単元一度は、HRT and/or JTEとALTがこれから行う/行った授業について話し合う機会がある。 <input type="checkbox"/> "Repeat after ALT-sensei"の他に、ALTがいることのメリットが感じられる授業となっている。	<input type="checkbox"/> ALTとのやり取りにおいても、外国語コミュニケーション態度のモデルを示すことができている。 <input type="checkbox"/> 少なくともT2(ALTをサポートする存在)であるという自覚を持って授業を行っている。 <input type="checkbox"/> ALTが話しているとき、児童・生徒が理解できているかどうかモニターしながら、うまく理解できていないと判断した場合は、ALTに繰り返し言ってもらっている。 <input type="checkbox"/> 適宜、ALTが話した文のキーワードを(児童・生徒に向けて)繰り返し言っている。 <input type="checkbox"/> ALTが話したことに対して反応している(e.g. Really? That's great!).	<input type="checkbox"/> 英語の発音のモデルを提供している。 <input type="checkbox"/> 自分の言ったことを児童・生徒が理解できていないと判断したときは、繰り返しや言い直しをしている。 <input type="checkbox"/> 指名した児童と英語でやり取りする場面がある。 <input type="checkbox"/> 個人作業やペア/グループワークの間、児童・生徒をモニターしている。
C 頑張る	<input type="checkbox"/> ALTがその日の授業で何をやるのか分かっていない。ぶっつけ本番で授業を行っている。 <input type="checkbox"/> 「ティーム・ティーチングよりも一人でやる方が良いなあ」と感じる授業である。	<input type="checkbox"/> ほとんどALTに任せきりにしている。 <input type="checkbox"/> 授業中、ALTとのやり取りをできれば避けようとしている。 <input type="checkbox"/> ALTの話したことを逐一日本語に直している。	<input type="checkbox"/> 授業中に登場する場面がほとんどない。 <input type="checkbox"/> 単に Human tape recorder / Human CD player として使われている。 <input type="checkbox"/> 児童・生徒と英語でコミュニケーションを取ることがほとんどない。

HRT = Homeroom Teacher (学級担任), JTE = Japanese Teacher of English (外国語専科教員, 英語教員)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 池野修	4. 巻 40
2. 論文標題 より良いチーム・ティーチングを実現するための教員研修	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 四国英語教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 31-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32276/seles.40.0_31	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 池野修	4. 巻 18
2. 論文標題 小学校教員・中学校英語教員が考えるALTとのチーム・ティーチングの課題—今治市での調査に基づいて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学英語教育学会（JACET）中国・四国支部研究紀要	6. 最初と最後の頁 116-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 池野修
2. 発表標題 より良いチーム・ティーチングを実現するための教員研修
3. 学会等名 第32回四国英語教育学会高知研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池野修
2. 発表標題 小学校教員・中学校英語教員が考えるALTとのチーム・ティーチングの課題—今治市での調査に基づいて
3. 学会等名 大学英語教育学会中国・四国支部
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

(1)池野修 (2023). 『外国語(英語)チーム・ティーチング改善のための教員研修資料及び支援ツール』 (全34ページのブックレット)
(2)チーム・ティーチングに関する教員研修の実績
・今治市小中合同夏季英語研修会 (2019年8月7日)
・令和元年度愛媛県教職員レベルアップセミナー (2019年8月21日)
・2019-2020 ALT Skill Development Conference in Ehime (2019年11月28日)
・令和4年度愛媛県教職員レベルアップセミナー (2022年8月21日)

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------